２００９年度　精神科　本試　　　　　　　　　　　　　　　　　2009年　9月28日実施





コメント：ちなみに過去問を持ってきた学生がいたらしく、今年はヤマをはると落ちるように全部の先生の範囲の問題を宮岡先生がつくると言ってました。

〔１〕

症例文が一枚あたえられ、二枚目で上記のように前頭側頭型認知症のMRIとSPECT画像が与えられた。なお、SPECTはいい画像がなかったのでこれで勘弁してください。なお、ほかの認知症についても画像から判断できる必要あります。以下の問題文は三枚目(全６枚)

下記のは大まかな文なので参考までに。

７６歳男性

７１歳のころから健忘がみられた。７４歳ごろ物忘れや日時など分からなくなることがあり病院にいきドネぺジルを投与されていたが、症状がすすむためドネぺジルの投与は中止された。いつもしていた作業に以前よりも次第に時間がかかるようになっていた。

　７６歳の時症状が進んだため本院に来院。改訂長谷川式簡易知能検査で１７点。１００から７を引くことが４回までは間違えることなく計算できた。日時がわからなかった。次第に怒りっぽくなってきた。きまった位置に置いておかないと突然怒り出すことがあった。など。もう少し長め。

1. 画像の説明をして、診断し、その根拠を述べよ。
2. この患者への治療はどうしたらよいか書きなさい。

〔２〕急性ストレス反応、外傷後ストレス障害、適応障害の発症契機、発病時期、主症状、経過について書きなさい。

〔３〕アルコール依存症の離脱症状についてかきなさい。

〔４〕以下の文章を読んで、正しければ問題番号に○を、誤りであれば×をつけなさい。

　　　(本試とは順不同)

×(１)うつ病の診断は環境因子をはじめに考慮すべきである。

×(２)SSRIはTCAに比べて副作用として、便秘をきたしやすい。

×(３)せん妄において幻視はまれである。

○(４)カーテンが身体に触れたことをサソリに刺されたと思い込んでいるのは妄想知覚である。

×(５)典型的なうつ病では、早朝覚醒よりも入眠期に障害が現れやすい。

×(６)一次妄想とは、罪業妄想、心気妄想、集団妄想である。

○(７)シュナイダーの一級症状の中に思考伝播がある。

×(８)統合失調症の生涯有病率は0.1～0.3％である。

×(９)統合失調症は老年期よりも青年期発症のほうが予後良好である。

×(１０)統合失調症の幻覚や妄想などの症状と関連するのは、黒質－線条体ドパミン経路である。

×(１１)神経性過食症では、肥満への病的な恐れがない。

×(１２)てんかんの複雑部分発作は意識が保たれる。

○(１３)躁うつ病の薬物療法にハロペリドールを用いる。

×(１４)てんかん重積発作の治療でフェニトインの点滴静注は行われない。

×(１５)アンフェタミンは身体依存を形成する。

×(１６)医療観察法は心神喪失者によるすべての犯罪に適応される。

○(１７)P-Fスタディ(絵画欲求不満テスト)は人格測定のための心理検査のうちの投影法の一つである。

×(１８)アスペルガー症候群は運動・言語の遅れをきたす。

×(１９)通過症候群は、統合失調症の臨床経過中におこる特殊な状態である。

○(２０)うつ病は昏迷をきたす。

○(２１)社会恐怖は老年期よりも青年期に起こりやすい。

○(２２)レム睡眠で筋トーヌスは低下する。

×(２３)医療面接において非言語メッセージは必要ない。

(２４)わすれた。。

(２５)わすれた。。